

日本史B 学習指導案

香川県立高松北高等学校

- 1 日 時 平成29年10月26日(木) 第4校時
- 2 授業場所 社会科教室(北館3F)
- 3 対象学級 普通科 2年5・6組(43名)
- 4 生徒観 真面目に授業に取り組む生徒が多いが、歴史の学習を「暗記」することととらえて、苦手としている生徒もみられる。中学校の社会科で「院政」「平氏政権」「鎌倉幕府の成立」を学習しており、基本的な知識を持っている。本単元の授業を通して古代から中世への歴史の変化をとらえさせ、主体的で深い学びを経験させたい。
- 5 使用教材 【教科書】 『詳説日本史B』 山川出版社
【副教材】 『新詳日本史』 浜島書店
授業用プリント
- 6 単 元 名 中世社会の成立
- 7 単元の目標

日本における中世社会の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその背景について、世界史と関連付けながら理解する。

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 of 技能	④知識・理解
中世日本の形成過程、社会や文化の特色に関心を持ち、意欲的に追及している。	中世日本の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景を多面的に深く考察し、表現している。	中世の社会や文化の特色に関する資料を選択、活用してその情報を読み取ることができる。	中世日本の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその背景について世界史と関連付けながら理解する。

8 教材観

11世紀末からおおよそ1世紀にわたり、白河・鳥羽・後白河3代の院は律令や慣例にこだわらず、専制的に政治の実権を行使した。社会を実力で動かそうとする風潮が強まり、武士が政治的発言力を強め、天皇・寺社・貴族・武家と権力が分立する中世社会へと変化する。院政が行われた理由や院政を支えた社会的要因を考えることによって、歴史の大きな枠組みを捉え、武家政権の形成につながっていくように指導していきたい。

9 指導計画(総時数14時間)

- ① 延久の荘園整理令と荘園公領制(1時間)
- ② 院政の開始と院政期の社会(1時間)… 本時
- ③ 保元・平治の乱と平氏政権・院政期の文化(2時間)
- ④ 鎌倉幕府の成立(2時間)
- ⑤ 北条氏の台頭と執権政治(2時間)
- ⑥ 武士の生活・土地支配(1時間)
- ⑦ 蒙古襲来と幕府の衰退(2時間)
- ⑧ 鎌倉文化(2時間)

10 本時の目標

- ・院政開始の要因やその背景を協働して学び、理解する。【知識・理解】
- ・受領層が院政を支持し、また院も重用した理由を考え、発表する。【思考・判断・表現】

- ・院と受領、地方の関係を資料から読み取る。【資料活用の技能】
- ・院政期以降権力の分立がうまれ、社会に大きな変化がうまれたことを理解する。【知識・理解】

11 本時の展開

内容 (時間)	学習内容・生徒の活動内容	授業者の支援内容	備考 (留意点など)	評価
導入 10分	○本時の問い「院政によって社会はどう変わったか」を知る。 ○院政とはなにか、概略の説明を聞く。	○黒板に示す。 ○中学校で学習した知識を思い出させながら、黒板にキーワードを貼る。		
展開 35分	○院政について、基本的な語句をワークシートにそれぞれ書き入れて整理する。 ○班で答え合わせをし、教え合う。 ○院政を支えた社会的要因を考える。 讃岐国守高階氏が鳥羽離宮南殿を寄進した資料をもとに、①なぜ鳥羽離宮で讃岐産の瓦が出土するのか②なぜ国司が瓦を寄進したのかを話し合う。 ○発表係が班の意見を発表する。 ○荘園の寄進、知行国制度などで公領の私領化がすすんだことを知る。 ○社会の変化を話し合い、班でボード上に図で表す。→前に並べる。	○まず自分で読み取るよう指示をする。 ○グループで助け合うよう指示をする。 ○班で話し合って考えをまとめるよう促す。 ○班の意見が共通するところをまとめる。 ○院の経済的基盤について理解させる。 ○各勢力が私領と武力を背景に実力で社会を動かそうとしたことを理解させる。	○個人で歴史用語を整理し、そのあとグループで協働する。 ○司会・記録・発表係を指定しておく。 ○資料から歴史を読み解く。	④ ② ③ ④
まとめ 5分	○院・知行国主（貴族）・大寺社などに権力が分散し、中世社会へと大きく変化した時期であったことを理解する。	○院の近臣であった平氏が中央政界に進出したことについて、次回学習することを予告する。		